

# 代表質問

11月定例会では、横山隆義議員（鳥取県議会自由民主党）が県行財政上の諸問題について、会派を代表して質問を行いました。

## 鳥取県議会自由民主党



横山 隆義 議員  
選挙区 東伯郡

### 主要事業の成果は

**問** 雇用創造一万人プロジェクト、未来づくり、鳥取力の創造運動推進事業、国際まんが博の取り組みについて知事の所見を問う。

**答** 現在立地企業5社、誘致企業4社、県内の新増設に関して200名程度の新たな雇用を前倒しする働きかけをして対応する。現在12のプロジェクトチームがあるが、緊急に経済雇用のプロジェクトチームを追加で立ち上げた。これからの鳥取県政は、人の力で前へ進めていく必要がある。国際まんが博では、延べ321万人の来場者が得られた。高知県知事とまんが王国同士で友好通商条約も結ぶ。

### 予算執行の在り方

**問** 平成24年度の決算見込みを踏まえ来年度の予算編成を控え、どのような基本姿勢で取り組みののか。

**答** 本年度の決算見込みは、税収減が約6億円だが前年度繰越金のうち一般財源約25億円が自由になるお金だと思う。大型の景気対策の一般財源として有効に活用したいと考えている。予算編成過程で得られた知見も十分生かして、県民の願いが込められた予算編成を進める。

### 定住施策・過疎解消対策

**問** 魅力的な農林水産業の再生は担い手の育成が不可欠である。定住施策、過疎解消策の成果を問う。

**答** J・U（移住）ターンによって地域コミュニティや農林水産業の地場産業の再生に向けて二つの取り組みをしている。一つ目は鳥取県移住定住サポートセンターを設置し、二つ目は現場感覚に基づいた情報発信でふるさと鳥取県定住機構と合体化してワンストップの相談サービスをする。農業農村担い手育成機構と一体となって関西、関東、首都圏で

も重点的にやっている。昨年は504名まで増加した。農林水産業への就業支援、職業・住宅への支援、田舎暮らしの生活を提案し、支援する方法でやっていきたい。中山間地域条例のもとに、買い物困難地域への対応で移動販売車の運営に対する助成制度の創設により、4地域、4市町の移動販売が開始された。「安心・活力・継承」のキーワードをもとに過疎、中山間地域の対策に全力で取り組んでいきたい。

### いじめとスポーツ振興

**問** いじめ問題対策・競技スポーツの向上策・台湾との交流・韓国とのスポーツ交流の推進は。

**答** いじめ問題が発生した場合には初動を大切にして、組織でスピードのある対応をする。検証の結果から得られた教訓を共有していじめを生まない学校づくりにつけていきたい。

国体やインターハイの結果、少年の活躍が目立ってきた。県体育協会や競技団体が一体となって取り組んできたジュニア期からの指導体制が効果を上げた。台湾との交流は、台中市との交流を中心に様々な分野で交流を進めている。韓国とのスポーツ交流は、レスリング協会と江原道の江原学園との交流、中部のウォーキング交流、境港の鬼太郎駅伝の参加等引き続き進めていく。

# 一般質問

11月定例会では、24人の議員が質問を行いました。本紙では、各議員の質問の中から、質問と答弁の要旨を掲載します。なお、議事録の全文は、県議会ホームページからご覧になれます。

### 高速交通網の整備

鉄永 幸紀 議員

選挙区 鳥取市 会派 自由民主党



**問** 山陰自動車道の完成は鳥取県に革命的な変革をもたらす。特に、鳥取西道路の完成は急ぐべき。①その戦略②発掘調査専門員の確保③道の駅④智頭急行の今後の対策について問う。

**答** ①工法変更も視野に入れ、Ⅱ・Ⅲ期工事が全面展開出来るよう働きかける②来年度は発掘調査専門員40人体制を確保する③市町村の道の駅など開通を睨んだ地域振興展開を応援していく④鉄道高速化の概算要求の行方を注視し、協力は惜しまない。

### エネルギー政策の今後

前田 八重彦 議員

選挙区 鳥取市 会派 自由民主党



**問** 福島第一原子力発電所の事故発生により脱原発を国民が希求している。今後のエネルギー政策はどうあるべきか。

**答** 福島原発事故は、ないはずの事故が起こったことからエネルギー政策を見直し、緩やかなエネルギー革命をと思う。県政として、再生可能エネルギーを増産し、更には新しい資源も必要と思う。メタンハイドレードが鳥取県のすぐ沖合にあることもわかり、従来の発想を破るようなエネルギー転換開拓があってもいいと考える。

### 水産物のブランド化と管理

福岡 裕隆 議員

選挙区 西伯郡 会派 絆



**問** すぐれた研究・資源管理を行ってきた鳥取県が、水産物のブランド化と適正な資源管理のための研究・協力について、関西広域連合内でリーダーシップをとっていくべきではないか。

**答** 関西広域連合の中で、水産資源も含めた食についての連携づくりを急ぎたい。また、関西広域連合としても農林水産業振興に役割を果たすようリードしていきたい

い。PRも必要であるし、どこで生産を維持可能な形で行っているのか、資源の管理も重要。

## 総合事務所 日野の見直し

内田 博長 議員



選挙区 日野郡 会派 自由民主党

**問** 総合事務所体制見直しの中で、日野地域には日野振興局、日野振興センター（いずれも仮称）の設置が検討されているが、日野郡という地域特性を踏まえた見直しとなっているか。

**答** 日野地域だけの課題には日野振興センターによって現地完結型とするのが適当。総合的に中山間振興問題に取り組むため日野振興局を設置して機能強化を図るが、県土整備局の機能は現状どおり。日野郡の特殊な農林事業に適應できる体制も残す。

## 地域主導型再 工ネで雇用を

野田 修 議員



選挙区 鳥取市 会派 自由民主党

**問** 鳥取県経済成長戦略に則った企業誘致等は図られているものの、三洋や日立の離職者救済には至っていない。雇用創出や地域に活力を取り戻すには、行政がコア的部分を補完し、中央集権型再生可能エネルギーから地域主導型再生エ

へシフトするのが早道。公共物の屋根貸し事業に、雇用の回りやすい地元企業の参入を促進すべきと考えるが如何か。

**答** 県庁内で、どうやればスムーズな雇用につなげる対応が出来るのか、部署も含め検討する。

## 西部に病弱特 別支援学校を

澤 紀男 議員



選挙区 米子市 会派 公明党

**問** 現在、西部地区への病弱特別支援学校・高等部の設置について検討会が開かれている。本来、特別支援学校は県が担うもので、小・中・高までの一貫した病弱特別支援学校を設置することが一番望ましいと思うが、高等部の設置と合わせ知事はどのように考えているのか。

**答** 検討委員会の中では、新しい高等部をつくる方向でどうだろうかという議論が多く出されたと言っている。そういう結論になっても結構だ。支えていきたい。

## 総合事務所の あり方検討

福田 俊史 議員



選挙区 八頭郡 会派 自由民主党

**問** ①八頭など総合事務所の見直しを検討されているが知事の考えは②山間地農業を活性化させるた

め、八頭に総合的な鳥獣対策と山間地農業振興策をあわせて山間地農業振興センターを新設すべきと思うが知事の所見を問う。

**答** ①基本的には東中西部という大きなくくりの再編を考えており、八頭地域については中山間地に即した担当者を配置したいと考えている②中山間地域振興という観点で組織的な対応を八頭という現場で工夫する必要があると思う。

## 青少年育成の 環境整備支援

長谷川 稔 議員



選挙区 倉吉市 会派 かけはし

**問** ①養護施設の小集団化、里親を増やす取組みについて何う②高校授業料無料化は画期的と考えるが、評価と現場の受けとめはどうか③母子・父子家庭の医療費助成対象者拡大の余地はないか。

**答** ①児童養護施設が家庭の支援センターの役割を果す他、養育を別の家庭で行う里親制度を民生児童委員にも協力を得て推進したい②私学助成も相俟って、中途退学も減少。公立では家計の負担軽減との声もある③特別医療見直しは市町村と協議したい。

## 鳥取三洋跡地 取得活用を

銀杏 泰利 議員



選挙区 鳥取市 会派 公明党

**問** 大型企業誘致可能な工業用地として、鳥取三洋電機跡地は貴重だ。産業振興のために工業用地として確保活用すべきである。

**答** 新規工業団地整備への支援策を、当初予算に向けて検討提案する。三洋跡地は工業用水・電源など整備されていて適地。工業用地として今後も活用するのがベターだ。鳥取市側で貸し工場を建設し誘致活動するのであれば、県は支援スキームを最大限適用して応援をしていくなど是可以。今後鳥取市と緊密に連携をとっていく。

## 米子港再生 プロジェクト

内田 隆嗣 議員



選挙区 米子市 会派 自由民主党

**問** 水木しげるロードの観光客を宿泊に結びつけていくためには、新たな観光スポットをつくる必要があると考える。米子港に鳥取県が主体となって都市臨海公園を整備し、その中に民間が商業テナントなどの開発を進めてはと考えるが知事の考えを問う。

**答** 米子港のエリアが錦海の公園とあわせて整備をされて、ちよつとした賑わいとかおしゃれ感覚が出て、まちの賑わいへ繋がって面白いことになってくるのではないかと思います。

## 木質系バイオ マス発電所を

岡岡 智志 議員



選挙区 八頭郡 会派 かけはし

**問** 豊富な森林資源をエネルギー資源として活用して雇用を増やし、低迷している林業の活性化や地域の再生を図るために、東部地域に間伐材等の木質バイオマスを利用する発電施設の設置を検討してみてもどうか。

**答** エネルギー政策としても重要であり、材を活用して山が動き出すようにしていく、その意味で重要な方策であると思う。ぜひ実現するように県としても積極的に、森林組合や市町村との協力体制を敷いていきたいと思う。

## 児童会などで いじめに対応

伊藤 保 議員



選挙区 東伯郡 会派 絆

**問** いじめ問題については、特効薬がない中、子どもたちの日常生活の中で早期発見早期対応が出来る仕組み作りが必要ではないか。

**答** 今日は、稲葉山小学校の六年生の皆さんが傍聴においでだが、学校は子どもたちが安心して学べる場でないといけない。早い段階でいじめの芽を摘み取る対応も大切だが、児童会や生徒会などの自治活動を通して、この問題を自分たち

で訴えたり、対策を子どもたちで取り組んでいくことも大切だと思う。

### 高校奨学金制度の拡充を

錦織 陽子 議員



選挙区 米子市 党派 共産党

**問** 公立高校授業料無償化、私立も支援制度が出来たが、他の経費負担が大だ。国に給付型奨学金の創設を求め、県も低所得世帯向けの給付型奨学金を創設すべきだ。

**答** 奨学金は貸与月額を減らす、要件を満たす申請者全員に貸与している。奨学金は返済金が原資なので給付型は困難である。

**問** 県の高校奨学金返還猶予の対象を未就職・低収入まで広げ拡充を図るべきだ。

**答** 厳しい雇用情勢のもと、返済猶予については検討したい。

### 湖山池の生物絶滅から救え

砂場 隆浩 議員



選挙区 鳥取市 党派 かけはし

**問** 水質改善のため、湖山川の水門を開放したところ、湖山池の塩分濃度が想定より東郷湖程度を超え、中海レベルまで上がった。その結果、県が特定希少生物に指定したカラスガイが絶滅するなど淡水性動植物の生存が脅かされている。生物多様性に優れた湖山池の

生態系を保全するために、水門開放を中止すべきではないか。

**答** 湖山池の塩分濃度問題は長い経過があり、住民の意向に沿って決断した。生態系が変わることも折り込みずみで、変更はしない。

### 一等米比率の低下問題

広谷 直樹 議員



選挙区 岩美郡 党派 かけはし

**問** 三年連続で県産米の一等米比率が悪く、稲作農家には大問題である。米ビジョンの見直し、作物関が将来を見据えた今後の方針を出す時期に来ていると思うが。

**答** 関係者が集まり次年度の対策を話し合う予定であり、また品種の課題についても現場とよく検討をする。米は本県の大きな主力の農産物であり、その品種構成は大変重要な要素だ。農業者の方やJAグループ等と戦略を立て、次の米プランに反映したい。

### 老人社会参加促進事業

濱辺 義孝 議員



選挙区 鳥取市 党派 公明党

**問** 高齢化が進む地域にあって、60代70代の方々、この世代のたちが元気で活躍できることが地域の安心安全、地域の福祉の活性化

につながる。このことから、老人クラブ社会活動促進事業を継続すべきだ。

**答** よく我々なりに分析をして、今回の事業棚卸しの提言がきっかけとなって、もっと老人クラブ運動であるとか高齢者の社会参画、特に支え合いと言われるような事業に効果が出てくるように仕組みを考えてみたいと思う。

### 農福連携の推進について

浜崎 晋一 議員



選挙区 鳥取市 党派 自由民主党

**問** 農福連携に対する評価はどうか。農業者と福祉事業者とのウィンドウの関係構築に向け、農福連携で生産された農産物等を流通させていく施策が必要ではないか。県が明確なビジョンを持ち、農業者、福祉双方が笑顔になる農福連携を進めていくことが重要だ。

**答** 農福連携が進展し、かなり成果が出始めている。農業者、福祉双方にメリットが感じられる仕組みを考えていきたい。農福連携のような鳥取県型の福祉を自信を持って、進めていきたい。

### 雇用と復興予算活用問題

市谷 知子 議員



選挙区 鳥取市 党派 共産党

**問** ①三洋・千代三洋リストラ中止と三洋新会社不公正採用の是正を。製造業再生事業と労働移動事業の対象拡大を②県民・被災者増税による復興予算をまんが博キャラバン隊等に流用し、胸が痛まないのか。被災地外利用を認めないよう復興基本法改正と、避難者生活・住宅支援を継続すべきだ。

**答** ①相談窓口を設置し、不公正採用は労働局に申し入れる。各種事業は柔軟に適用する②雇用で効果があり法改正は求めない。避難者支援は新予算で柔軟に対応する。

### 鳥取県の歴史文化について

森岡 俊夫 議員



選挙区 境港市 党派 かけはし

**問** 幕末期の県史の検証や文化教育は、極めて重要だと思うが。

**答** 来年の本圀寺事件150年供養祭を県としても支援する。また、調査では、本県の子どもは地域の行事に参加する割合が高い。この傾向を大切にして、県史や文化、伝統を学ばせる機会を増やしたい。

**問** 歴史、文化教育に漫画を活用してみているか。

**答** 来年度県史や文化をテーマとした漫画コンテストをやる。まんが博で「トリコレ」を完成させた高校生を繋げていきたい。

### ジオパークの再審査は!?

藤縄 喜和 議員



選挙区 鳥取市 党派 自由民主党

**問** 山陰海岸ジオパークが世界ジオパークネットワーク(GGN)加盟して2年2ヶ月が経過したが、4年毎の審査に向けて、GNから指摘された10項目の改善点の状況はどうか、知事に問う。

**答** 指摘された10項目のうち6項目はすでに解決したが、中核となる拠点施設の整備等、残った指摘事項については、ジオパーク協議会に投げかける等、再審査をクリアするため万全を尽くして行きたい。

### 中小企業の雇用維持対策

岡治 英夫 議員



選挙区 倉吉市 党派 絆

**問** 県内製造業に事業縮小、人員削減の動きがあるが、雇用調整や新規受注先の開拓に県の支援を。雇用調整助成金で、企業間での出向等による失業なき労働移動の取り組みを奨励・支援しては。

**答** 国が新たに戦略産業雇用創造プロジェクト事業(県が産業構造のビジョンを示して、支援を集中させるもの。)の中で、県の実情に合った雇用調整金の提案もする。新規受注先の確保は、新年度予算で対応。失業なき労働移動は、

事業を柔軟に適用する。

## 交通事故情報共有と公開を

森 雅幹 議員



選挙区 米子市 会派 絆

**問** 交通事故情報は「とっとりWEBマップ」で人身事故の一部を公開しているが、不十分。物損事故もたまたま重大事故になっていないだけで。交通事故を地図情報として保有し、警察、道路管理者、市町村、交通安全協会、自治会等で共有して安全対策をすべきた。  
**答** 交通事故情報を県民や関係機関で共有することは、大変重要。全ての人身事故について地図情報としてHPで公開していきたい。物損事故は、今後の技術の進歩に合せ考えていきたい。

## 路線バスと警察署の再編

谷村 悠介 議員



選挙区 鳥取市 会派 とっとり

**問** 幹線と枝線で結び、デマンド型を行う鳥取市のバス運行方式を県主導で全県に広げてはどうか。  
**答** 地域協議会で議論したい。

**問** 鳥取市河原町の方から管轄の智頭警察署は遠いとの指摘があるが、高速警察も含む機動センターを併設して、老朽化の進む郡家・智頭の両警察署を一体化して再編

し、旧八頭郡全体を管轄する八頭警察署を河原インター隣接地に建設してはどうか。  
**答** 議員からの提案は、ご意見として承りたい。

## 中山間地域の活性化対策

伊藤 美都夫 議員



選挙区 倉吉市 会派 自由民主党

**問** 中山間地域では高齢化が進み集落の消滅や地域の崩壊が懸念されている。集落機能を維持し、土地、集落を将来に引き継ぐためには、移住対策の一層の促進などの思い切った対策が必要ではないか。耕作意欲を失うほどの深刻な鳥獣被害が多発している。早急な対策を講ずるべきではないか。  
**答** 中山間地域の集落対策及び移住対策は、市町村と連携して進めていきたい。鳥獣対策は市町村及び隣県と連携し生態系の変化に応じ柔軟な対策を講じていきたい。

### 会派正式名称

自由民主党…鳥取県議会自由民主党  
絆…鳥取県議会会派「絆」  
かけはし…会派「かけはし」  
公明党…公明党鳥取県議会議員団  
共産党…日本共産党鳥取県議会議員団  
かいつしん…会派「かいつしん」  
とっとり…県議会とっとり

※所属会派は11月定例会時点のもの



# 盛んな国際交流を展開 地域間で絆深め合う

鳥取県議会は友好提携している中国・河北省や韓国・江原道などから議員団を受け入れ、議員を派遣するなど地方間の国際交流に力を入れている。

江原道議会の金是晟副議長を团长とする訪問団が昨年10月来鳥し、国際まんが博を視察した。竹島問題で日韓関係が緊張した時期だったが、意見交換会で金团长は「こういふ時だからこそ、地方議員が顔と顔を合わせるべきだ」と話され、地方間交流の重要性をお互いに再認識した。

鳥取県は江原道、沿海州、中国・吉林省、モンゴル・中央県と1994年以来、北東アジア地域国際交流・協力地方政府サミットを回り持ちで開催しており、昨年4月には鳥取市に招致した。諸行事に県議が参加したほか、一昨年9月、江原道で開催された北東ア



平成24年10月17日  
ロシア極東地域訪問団  
沿海地方議会表敬

シア地域地方議会議長フォーラムへも議長経験者を派遣した。

昨年の議員の海外派遣は台湾、ロシア極東地域、吉林省とソウル、ブラジルの5カ国で延べ15人。

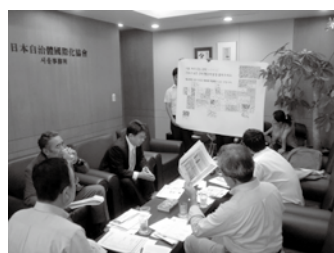
台湾訪問団は台中市、苗栗県、桃園県、台北市を訪ねた。交流を続けてきた台中県が台中市と平成22年末に合併し、新台中市が誕生して初めての訪問で、今後の交流について話し合い、平鎮高級中学や東海大学等を視察。農協等と意見交換等もした結果、教育と農業の交流を今以上に促進すべきとの感触を得た。

ロシア極東地域訪問団は昨年9月にロシアで初めてAPECが開催されたウラジオストクと沿海州のハバロフスク市を訪れた。鳥取は東京に次ぐ知名度で、観光客誘致や貿易など経済交流の可能性の高さを実感。吉林省訪問団は鳥取

県から進出した企業や店舗を訪問。延吉・図們江地区国際投資貿易商談会に向いて意見交換を重ねた。今後の議会審議の中で活かせる貴重な知見を得ることができた。

ブラジル訪問団は、鳥取県人会創立60周年記念式典に参加し、記念事業として創設された「サンパウロー鳥取友好の森」で植樹した。県人会は鳥取大火で郷里に義捐金を送ろうと設立され、ブラジル移民が県事業として推進されたことから交流が続いており、郷里への思いに込める訪問だった。

伊藤美都夫議長は「世界経済の注目は大きく飛躍が期待されているアジアに向けられている。その中で鳥取県が、環日本海地域、北東アジア地域への有力な交流ルートの拠点になれるかどうかは本県の努力次第」と指摘。「県議会としても活力ある地域づくりの一環として、これらの地域との各種の交流を積極的に進めるべく、議員の認識を高め、執行部と一丸となって取り組みたい」と話している。



平成24年9月4日  
吉林省訪問団  
自治体国際化協会ソウル事務所訪問